

ことぶき共同診療所だより

第 39 号

2015 年 6 月 30 日発行

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 1・2F
電話とファックス 045-651-2305(診療所) 045-305-4322(鍼灸院・資料室)

E-Mail info@kyoudouclinic.com

http://kyoudouclinic.com

発行：医療法人ことぶき共同診療所

目次

- 2015年上半期を振り返る 鈴木 伸 ②
しらふの会について..... 郡司 孝行 ⑤
稲子の田植え 橋本 等・橋本 玄 ⑥
“診療室から” (35) - 同病あい憐れむ - 田中 俊夫 ⑦
寿町・あれこれ ⑥ - 「トコジラミ」退治のいい話 - 松本 一郎 ⑧
寿町地域ニュース・あらかると(‘14年11月～’15年6月) .. 松本 一郎 ⑩
診療所日誌(‘14年12月～’15年5月)..... 矢島 雅子 ⑪
共同診療所・鍼灸院ガイド..... ⑫



2015 年上半期を振り返る

2015 年になって、あっという間に半年が経ちました。この間せつかく診療所だよりの原稿をあげたと思ったら、また依頼が回ってきました。昔は文章を書くのはそれほど苦ではなく、楽しく書いていたのですが、最近は何々の忙しさと加齢の「シナジー効果」で、文章を書くのが苦痛になってきました。ギャグもなかなか浮かびません。また、世間は妙にざわついていきます。自然界では日本各地で噴火や地震が相次ぎ、政界では憲法違反と専門家が言っているのにも関わらず危険な法案が数の論理で通過しようとしています。消費税も福祉に回すといいながら、ちっともまわってくる気配がなく、医療費はさらに厳しく抑制されそうです。そうした落ち着かない世情を反映し、当院の患者さんもちっとも落ち着きません(筆者の医療レベルの問題もあるかもしれませんが…)。閑話休題。2015 年の上半期を振り返ってみたいと思います。

【「ゴールデンウィーク」なんて誰が呼んだの? ~連休明け、入院相次ぐ~】

別の診療所にも勤める某先生がポツリ

といました。「ここの患者さんは本当に大変ですね。こんなにしょっちゅう入院先を探している診療所はないですよ」。

もう 10 年以上も診療所にいると、「これが日常」になっているのですっかり忘れていましたが、やっぱりここの診療所は内科、精神科を問わずハイリスクな人が多いようです。少なくとも週に 1 人は入院先を探して電話をかけまくるということが日常になっておりますが、特に、例年、長期休暇の後に患者さんの体調や精神状態が崩れて、対応に困ることが多いです。

今年の GW も例に漏れずひどい状態でした。休みが終わって診療所を開けると、週に 6 人もの入院が必要で、そんな状況を目の当たりにすると、長期休暇なんてない無い方がいいと思ってしまうぐらいです。

寿に不安定な人を結果的に集めてしまっている横浜市の構造上の問題、また、そうした不安定な方々が高齢化によりさらに悪化しやすくなっているということがあるでしょう。「いったいどこがゴールデンなんだい?」と愚痴の一つも言いたくなり

ますが、そんなことを言ってしまうとしょうがない
ませんね。

今後も、こうしたハイリスクの患者さんを
診ていくためにも自らの健康に気をつけ、
空手の練習、筋トレをしながら、みんな
で頑張っていきたいとします。今後もよ
ろしくお願いします。

【弓野先生タンザニアへ旅立つ！】

2011年10月より当院に勤めてくださ
った弓野先生が、タンザニアに旅立ちま
した。もともと海外医療を志し、そのた
めに家庭医として研鑽を積んでいらっし
やったのですが、機が熟し、いよいよ4
月より旅立ちました。

当院の患者さんの中では「診察室へ、
どうぞ」[♪]というキュートな声に癒されて、
それを聴きに通院されている患者さん
もいると聞きました。でも、そんな声も
聴けなくなるということで、かなりがっ
かりした患者さんも多いことだと思っ
ています。しかし、一度きりの人生です。
診療所としては痛手ではありますが、
人間としては先生の夢を遠い日本から
応援したいとします。体に気を付けて
頑張ってください。

【熊倉先生が水曜日午後半日になりました】

いままで、毎週水曜日に1日勤務だ
った熊倉先生が、4月から午後の半日
になりました。臨床と研究の2足のわら
じを

履いてがんばっている先生は、多忙な
中でも、「それでも寿で働きたい」との
ことで、忙しい中を縫って続けてくだ
さるとのことです。

半日にはなりましたが、診療所をこ
れからもよろしくお祈いします。

【診療所のレイアウトかえました】

待合室から見たときは気が付かない
かもしれませんが、4月から診療所の
レイアウトが若干変わりました。診療
所では最近車いすの患者さんが増え、
また、診察の途中で救急車のストレッチ
ャーが入ってくることもしばしばです。
以前は、処置室前でかなり渋滞してし
まうこともしばしば見られておりました。
このままではまずいということでレイ
アウトを変更しました。ついでにたま
ったゴミも廃棄し(僕の周囲だけかも
しれませんが)、少しすっきりした感
じになったと思います。

今後も、気が付いたところから、少
しずつは改善を図っていきたくと思
います。もし、お気づきの点がありま
したらスタッフにお知らせください。

【しらふの会順調です】

昨年の9月にはじまった、診療所の
アルコールプログラム「しらふの会」
は順調に進行しています。寿の患者
さんでもできるCBTという概念で
作業療法士の郡司さんを中心に試
行錯誤で続けて

います。

いままで自分の感情を話せなかったり、「飲んでません！」しか言えなかった人たちも、だんだん正直に感情を言葉にできるようになってきました。また、少しずつではありますが、飲酒の量が減ったり、減らさないといけないと語る方が徐々に増え、成果を実感しております。

最近、アディクション業界では、長期的な予後(結果)を考えると、薬やアルコールを「やめること」「やめさせること」よりも、まずは安心できる環境、信頼関係を作ることが重視し、「治療の継続こそが大切」であると言われていています。それは、長期的な視点でみると、治療につながっていることこそが生き延びていくために必要なことだからです。

そういう意味では、しらふの会は比較的継続率も高く、いまのところいい線いっているのではと思っております。初めは不慣れで戸惑っていたスタッフも、だんだん慣れてきており、今後も継続し発展できれば良いなあと思っております。

【寿の在野の哲人、西川紀光さんが亡くなりました】

以前、この診療所だよりでも紹介した、寿町の在野の哲学者で、『毎日あほうだんす』(トム・ギル著、キョートット出版)の主人公である西川紀光さんが、6月初めに亡

くなられました。

昨年、本が出版された直後は、トム・ギル先生とトークセッションしながら本を売るなど元気な様子でしたが、その後体調を崩され、闘病生活を続けていらっしゃいました。そして6月初めに永眠されました。

少し落胆しながらネットを検索していたところ、先日高橋源一郎さんが、この本の書評を書いているのを発見しました。さすが源一郎先生。書評が素敵だったので一部引用してご紹介します。

ギルさんが聞き間違えた「あほうダンス」こそ、西川さんの存在のもっとも奥深くを示す言葉だったように思える。完全な自由に見える西川さんは、自由がその裏側に巨大な拘束を抱えていることを知っている。わたしたちはどうだろうか。西川さんのように自由だろうか。いや、自由ではないことは知っていても、その自由ではないことの裏側にある、巨大な拘束について知ろうとさえしないのではあるまいか。

西川さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(鈴木 伸)

しらふの会について

診療所にてアルコール依存症の方へのプログラム「しらふの会」を昨年9月より開催しています。

「しらふの会」ではミーティング形式で進行しますが、お茶とお菓子を提供し和やかな雰囲気での意見交換を主体としています。多くの参加者は集団が苦手、人前で話すのが苦手、難しい内容が理解できないなどの現状を抱えており、自助グループや中間施設などを継続できなかった方が中心です。また、断酒への課題設定も固まりきらず持続的に飲酒問題を持っている方がほとんどでした。

そのような現状を抱える方たちに対する課題設定として、「しらふの会」ではその時『しらふ』で参加できることを最優先としています。日々の生活でのスリップや、節酒で生活していくことも許容し、飲酒そのものが参加中止のきっかけにはならない枠組みを心掛けています。

実際に提供するプログラムのテーマとして飲酒、断酒それぞれのメリットデメリット、飲酒が身体・精神に与える影響、飲んでしまうきっかけ、飲酒欲求への対処などを教育的な情報提供を行いつつ、率直な現状などを各参加者が語ります。内容を進めていく中で、依存症に特徴的な否認だけでなく、飲酒すること＝悪いこととの意識、飲むと叱られるとの潜在的パターンを強く持っている方が多いように見受けられ、なかなか飲酒にまつわることについて正直に話せない現状がありました。

しらふの会では前述のとおり、飲酒自体について大きく否定せず、その過程や結果を確認していくことにとどまります。そのような会の進められ方に、「言ってもいいんだ」といった雰囲気となり、徐々に正直に語り始める参加者もいました。この点については、しらふの会を積み重ねる中で大きな収穫となりました。正直に現状を話し、共有することでそれぞれの現状が課題として表面化し、本人にとって振りかえり、考える機会となることを期待しています。

当初は4、5人で始まった会でしたが、現在参加者は10名近くにまでなりました。その経過の中で、身体面のモニタリングやリハビリとしてのウォーキング、参加の積み重ねの実感やモチベーションになればと参加者に参加カードを渡し、参加ごとにシールを貼ることなど会の進め方も変化させてきました。

開始9カ月が過ぎ、のべ実施回数30回を超えましたが、まだまだ試行錯誤の中で行っています。今後も診療所につながる方の現状に合わせ、より役立つものになるように積み重ねていきたいと考えています。

(郡司 孝行)

稲子の田植え

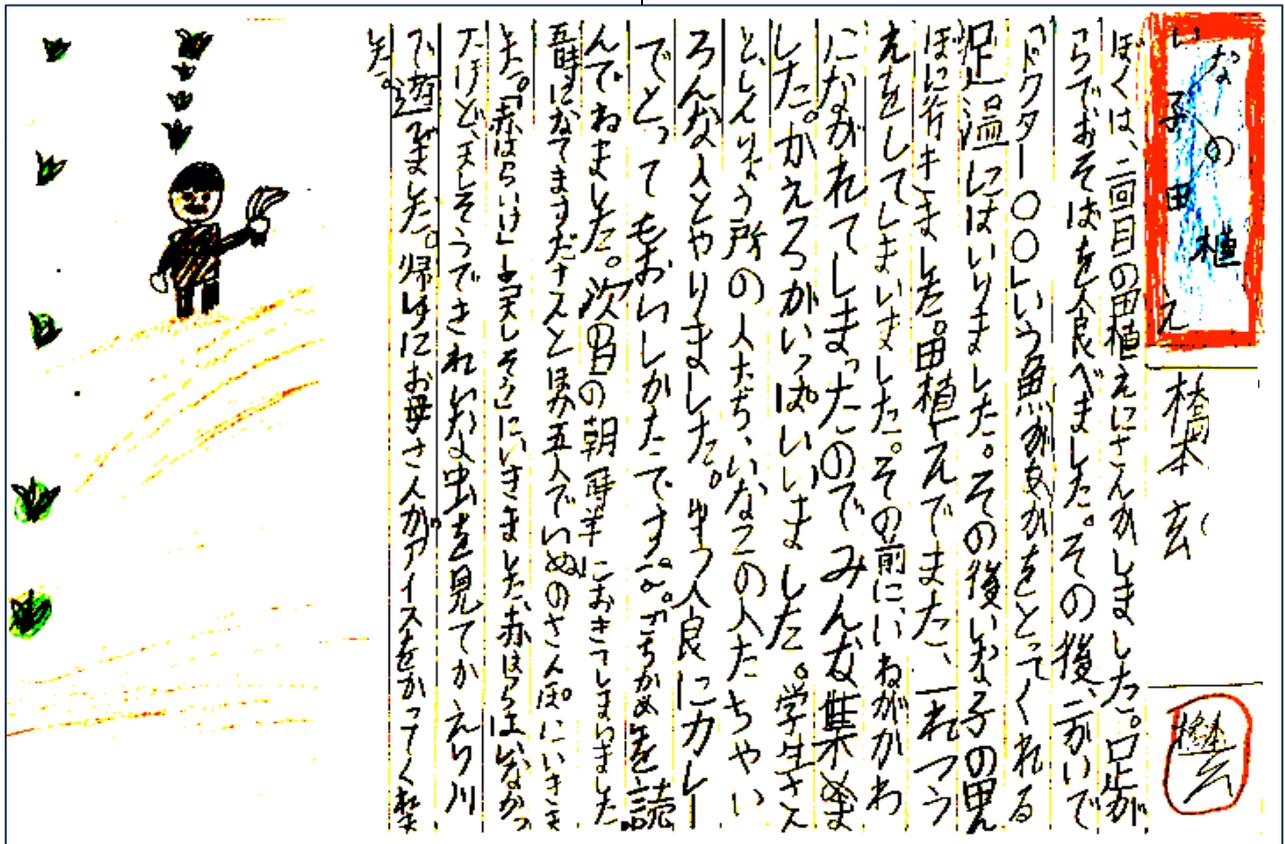
5月16日から17日にかけて、デイケアのイベントで稲子の田植えが行われました。参加者の感想文と絵日記です。(編集部)

「橋本さん、来週稲刈りがありますが、いっしょに行きませんか?」。今から14年前、私が診療所でのアルバイトの面接で、田中俊夫さんにお会いした時に俊夫さんからかけられた言葉です。私が診療所で働くきっかけは農作業ができるという理由でした。

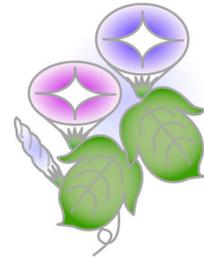
寿町のことは以前から知ってはいましたが、診療所の特徴や患者さんのことなど一切解らない私でしたが、俊夫さんからの誘いに乗って運転手として参加した次第です。稲子へ行く当日、道を歩いていた方に俊夫さんが「今から稲子に行くから一緒にいこう」と声をかけ、その方も何も持たないまま車に乗ってきました。

あとでその方のあだ名が「まんがいち」さんで、ほとんどの会話が「まんがいち」しか言わない不思議な方でした。そのころは、総勢20~30名近くいたような気がします。稲刈りをし、近くの共同浴場へ行きましたが、その帰りに「タバコ屋へ寄ってほしい」「私はここから歩いて帰る」など、個性的な面々がそれぞれ思い思いの発言をされ、なんとなくうろたえたことを覚えています。あれから14年。いろいろありました。

あのころのメンバーさんで今いらっしゃる方は1名。稲子農場では、季節ごとのさまざまな農事も行っており、スタッフの子どもも参加しています。時が流れる中で、様々な農事を大切にしている稲子。これからもよろしくお願いいたします。(橋本 等)



“診療室から”(35)



同病あい憐れむ

標題のような言葉があり、結構よく使われている事は皆さんよく御存知の通りです。しかしその場合、比喩的に“病い”と云ってはいても、本当の病いではない事が多いです。私の場合は本当の病いであることがしばしばあり、患者さんと一緒にため息をつきあったりしています。“相手の身になって”とか、“想像力を働かせて”とかよく云われますが、そんなこと簡単に出来るわけではないよね、等としたりしています。私の場合たくさんの病気をもっているものだから、同じ病気をもっている患者さんと話しをする機会も多く、まさに同病あい憐れんでいます。私の病歴をあげてみますと、20年前の56歳の時に脳梗塞を発病し、右半身不全麻痺の後遺症が残っています。9年前の67歳の時には、不安定狭心症を発病し、心臓カテーテルをやって、冠状動脈にステント(金属の管のようなもの)が入っています。その4年後の71歳には、脊柱管狭窄症を発病し、歩行はますます難しくなり、立位は不安定、座位でもかなりの腰痛があります。更に医大の三年生の49歳の時から高血圧となり、以来今日迄降圧薬の服用を続けています。その上に糖尿病があり、一昨年12月からは、膵臓癌の宣告を受けて抗癌剤を服用しています。

一番患者さんと共感しあうことが多いのは、腰痛です。“痛いのが嫌だよ”とか、“でも歩かないと歩けなくなっちゃうからね”とか云いあっています。糖尿病の人とは、食事制限についての愚痴、高血圧の人とは、脳出血に対する不安、脳梗塞の人とは、“再発しないように気をつけようね”等と話します。医者としては、患者さんに対して、客観的、科学的に説明し、治療をしていかなければならないわけですが、その上で、共感できる事は共感していければいいと考えています。患者さんは多くの場合孤独で、不安にさいなまれている。そして、同病者に対して多少なりとも仲間意識を感じられると、少しだけでも気持が楽になると思うからです。“同病あい憐れむ”は、一種の癒しでもあるのです。

(田中 俊夫)

寿町・あれこれ

⑥「トコジラミ」退治のいい話

これまで、ずっと昔の寿を知っている人から、「海外から運ばれてくる麻袋に南京虫が潜んでいて、偶然港湾労働者の服などに付着して持ち帰り簡易宿泊所に住み着くことがあった」「南京虫は明かりが嫌いだから、港湾労働者は夜でも電気をつけて寝ていた」と聞くことがあった。そのため私は、南京虫は港湾労働と密接な生物とぼんやり思っていた。その後、最近になって、南京虫の正式名称は「トコジラミ」だと知った(寿界限では今でも南京虫のほうがポピュラーであると思う)。

港湾日雇労働者は、コンテナ輸送化による大規模な人員削減や常用雇用化により、1960～70年代頃激減していった。ということは、もう随分前から横浜港から寿への南京虫の「持ち帰り」は、ほぼ無くなったはずである。だが、当診療所では、1996年の開所以来、南京虫被害の話は時折耳に入ってくる。南京虫が何代にも渡って世代交代を続けている場合があるのだろうか、あるいはどこからか持ち込まれる場合があるのだろうか。誰もその実態を掴んでいない。南京虫に聞くしかないが、教えてはくれないだろう。

一方で、2012年には遺伝子の変異し耐性をつけた“スーパーナンキンムシ”がNHK「クローズアップ現代」で取り上げられた。報道では、「戦後、DDTの大量散布で一度は駆除されたかにみえたこの虫が今、再び海外から持ち込まれ、その被害が増加している」とされ、一般に広がってもいる。

こうした中、昨年より駆除に乗り出したのが横浜市中区である。駆除費用を一部補助するという、この歴史的な事業の内容や南京虫の生態・駆除方法などについて、担当部署の生活衛生課環境衛生係に伺った。

■「駆除費用一部補助」導入の経緯を教えてください

中区では、住民からの害虫駆除の相談を窓口や電話で受け付けている。その都度、害虫への対処方法などを助言してきた。近年、寿からのトコジラミ相談が顕著に増えてきた(特に簡宿のオーナー)。区としても、特別の要因があるのではないかと考えたが、よく分からなかった。これまでも住民や帳場からの相談があり、現地調査をし個別指導をしてきたが、被害が思いのほか多く、駆除は地域全体の課題であると再認識するようになった。こうして、各居室への個別対応ではなく、建

物全体への対応として対策を取ることになった。しかし、そうすると費用がかかるため、補助金を使いながら対処することとなった。

昨年度は、本当は4月から始めたかったが、

予算の関係、区役所内と寿地区内での調整もあり、10月に本事業のアナウンスをして、4月から遡って適用することになった。昨年度は43件の申請があり、うち簡宿が40件(実数36軒)、病院が3件であった。駆除は、業者に委託して実施したケースが37件、所有者が自ら実施したケースは6件であった。費用の平均値は、約11万5千円となっている(以上の数値は、暫定値)。簡宿や病院では、普段から業者

中区トコジラミ駆除費用一部補助制度

対象者: 中区内の病院及び診療所、薬局または寿地区内簡易宿所等の所有者等

補助(2015年4月1日以降の実施分)

①駆除事業者による費用の1/2(ただし上限5万円)

②補助対象薬剤費用の1/2(ただし上限5万円。有機リン系又はカルバメート系等の殺虫剤が補助対象)

なお、①、②のいずれも、トコジラミの発生が確認され、実際に駆除を行った場合に限る

申請期間(1次募集): 2015年4月1日～7月31日まで

問い合わせ先・申請先

中区生活衛生課環境衛生係
 中区日本大通35 中区役所別館4階
 電話: 045-224-8339

による害虫駆除が行われており、トコジラミについてもその流れで実施するが多い。また、簡宿の駆除については、特定の居室だけではなく、建物単位で全館を一気に実施するのが普通である。

本年度は2年目ということで、一次募集を4月から始め、トコジラミの活動期である7月31日までとした。真夏までに“ドーンと叩いて”駆除しておく効果的で、後で被害を少なくすることができる考えた。

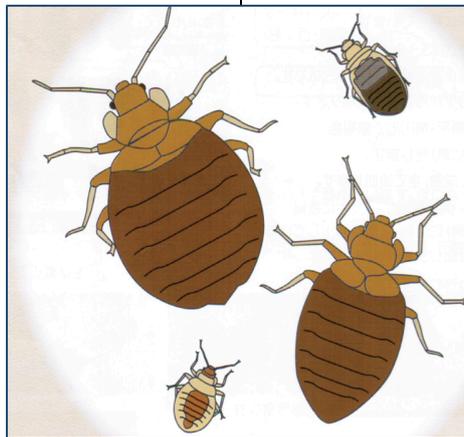
■ところで、一体どのような虫ですか

トコジラミは、卵から成虫までの期間は約40日間で、夏場では約1ヶ月で成虫になる。

成虫は羽がなく楕円形で赤褐色、大きさは5～8ミリで、夜間に活動し、雌雄・幼虫・成虫全て、人や動物の肌の露出部を刺し吸血する。ただし、刺されても、ほとんど痛みは感じない。吸血時間は長く、大量の血液を吸う。血を吸うと身体が大きくなってしまふ。そのため、糞(血糞)を出して小さくなってから、狭く暗い巣に入り潜伏する。その周辺には糞がたまり、黒褐色に汚れている。

巣は、隙間(壁、柱、ソファ、布団、マットレス、段ボール、畳、ベッド、押入れ、コンセント、電化製品など)、家具の引き出し、床板の継ぎ目に多い。つまり、人間の家は、トコジラミにとって暮らしやすい環境ということになる。ちなみに、吸血しなくとも、1ヶ月以上生きていることもあり、恐るべき生存能力を備えている。

雌は、1日に4個ほど、一生に500個程度の卵を断続的に産む。



トコジラミのイラスト

(横浜市保健所パンフレット「トコジラミに注意! 持ち込まない! 増やさない!」より)

■どのような被害がありますか

トコジラミによる最大の被害は、強い痒みの持続にあり、二次的には安眠できないといった精神的な影響をも及ぼす。なお、吸血した血液や唾液による感染は、過去に事例はないと言われている(ただし絶対はないとは言えない)。

■予防や駆除には、何が有効ですか

予防は、室内の整理整頓、掃除機によるこまめな清掃を行い、トコジラミが住みにくい環境を作ることである。また、外からの持ち込みを防ぐためには、購入した家具・電化製

品・古本のチェックをすること、捨てられているものを拾わないなどが挙げられる。

駆除は、第一に、糞があるところには巣があるので、巣の周辺に「有機リン系」「カルバメート系」の殺虫剤を吹き付けて、巣から出てきた時に身体に薬剤が着き死亡するのを待つ(残留噴霧法)。第二に、熱に弱く70℃前後で死亡するため、業者の専用トラックの荷台の中で2時間程度衣類等を熱する方法、ソファなどスチーマーで少しずつ駆除する方法がある。なお、業者による駆除には一般に保証が付いているため、「取りこぼし」があったら再度駆除をしてもらえることが多い。

■最後に、メッセージをお願いします

「ぜひ、この補助事業を利用してください。これをきっかけにして、トコジラミの予防や駆除を進めて欲しいと思います。」

(松本 一郎)

寿町地域ニュース・あらかると (’14年11月～’15年6月)

【国レベルの貧困対策】社会保障審議会生活保護基準部会が住宅扶助や冬季加算等に関する報告書を取りまとめ[1.9] / 政府が 2015 年度予算案で住宅扶助・冬季加算の削減を閣議決定[1.14] / 民主党が「共生社会創造本部」の初会合開く[2.3] / 首相施政方針演説で子どもの貧困対策に力を入れることをアピール[2.12] / 生活困窮者自立支援法施行(全国の福祉事務所設置自治体で相談窓口開設)[4.1] / 子どもの貧困対策基金の新設が「子供の未来応援国民運動」発起人集会で採択[4.2] 【本】野本三吉(加藤彰彦)『子どもとつくる地域づくり』(学苑社)刊行[’14.11.8] 【労働】寿労働センター「ことぶき NO.6」発行[’14.11] / 同センター、Lプラザ1階への来年4月移転を会館に掲示[6月] 【夜間銀行】第1回寿貯蓄組合残余財産金使途検討会[’14.12.4] 【センター(寿町総合労働福祉会館)】地域意見交換会で「基本設計」(ゾーニング等)を検討中(今年度後半から来年度にかけて「実施設計」を検討予定)[第1回’14.12.9、第2回2.10] / 本年度末で会館を退去する寿クリーンセンターが事業存続のため寄付金募集[5月] 【人権】横浜弁護士会が2014年度「人権賞」を生活困窮者支援に取り組む「インクルージョンネットよこはま」に贈ることを決定[’14.12] 【商業店舗】南雲ガラス店閉店[’14.12] / COFFEE こま閉店[’14] 【簡易宿泊所】東会館オープン(寿町3-9-6)[1.5] / 濱ゆめオープン(長者町1-1-13)[3.1] / 5月17日未明の川崎市日進町の簡宿「吉田屋」「よしの」全焼火災(死者10人)を受け、横浜市内木造簡宿・旅館(35施設<中区内は6施設>。うち寿地区内3棟)の緊急立入り検査が始まる[5.19] / 白樺荘新築予定(6.15解体予定)[5.20 現在] / G1-build オープン(「ミラージュ」改築。扇町1丁目では初めて)[6.2] 【野宿者】1月実施の全国調査によれば横浜市内の野宿者は548人(内男性535人女性13人)[1月現在] 【介護】ことぶきゆめ会議「寿地区に住む要介護5の人の生活を知ろう」開催[2.26] / 訪問介護ステーションふあいと寿オープン(寿浴ビル1階)[5.1] 【子ども】横浜市、生活保護世帯等の子どもへ寄り添い型学習支援事業を全区実施[2月] / 神奈川県子どもの貧困対策推進計画策定[3.31] / 横浜市、子どもの貧困対策に関する計画検討業務委託プロポーザルの実施公告[4.9] 【リカバリー】AA 横浜地区の集いで鈴木院長講演(3/31 付神奈川新聞掲載)[3.29] 【ネットカフェ】かながわチャレンジネット廃止[3月] 【生活困窮者法】横浜市、各区生活支援課生活支援係で本法に基づく事業を直営で開始 / 寿地区内のはまかぜ、仕事チャレンジ講座、寿地区寄り添い型学習等支援事業は本法適用となる(はまかぜは「生活自立支援施設」へ)[4.1] 【市議選】森英夫氏が中区で立候補(4.3 告示、3,273票で落選)[投票日4.12] / 同氏「命からしんぶん1号」発行[5月] 【生活保護】横浜市、7月1日より簡宿の住宅扶助額(特別基準)引き下げへ(月額69,800円から68,000円<1,800円減>)[6月] 【高齢者】コトラボ(ヨコハマホステルヴィレッジ)「第1回アフタヌーンカフェ(中区ことぶき高齢者健康維持支援事業)」開始[6.4]

※寿町に関する国・自治体の政策等も一部含まれます。

(寿町関係資料室 松本 一郎)

診療所日誌 '14年12月~' 15年5月

12月 最近、Uクリニックにお世話になっています。

- 12月12日 診療所忘年会。今年もお世話になりました。
- 12月19日 警備員をしていたIさん。仕事を辞めてからお酒が止まらずげっそりした姿で登場し、びっくり。
- 12月26日 デイケア、クリスマス会。
Sさん、診察終了後、近くのコンビニで、けいれん発作で倒れ運び込まれる。以後、担架を買う。
- 12月30日 年末年始が長期間のため、本日午前まで診療。

1月 長い年末年始の休暇でした。皆さん、よく飲みました。

- 1月23日 DOTSのNさん、来院がないので訪問するとカミソリで首を切っており、救急搬送。
- 1月28日 精神状態の落ち着かないHさん、当日の午後の入院が決まっていたが暴れ、警察同行で入院となる。

2月 今年のインフルエンザは流行が早く、もう下火です。

- 2月5日 しらふの会の中間報告会行われる。
- 2月21日 はまっ子のAさん連続飲酒で入院。
移動途中で目覚め、「こんな田舎やだ」と叫ぶ。
- 2月25日 弓野医師、本日で一時終了。タンザニアに旅立ちます。
- 2月28日 診療所のレイアウトを変えました。

3月 家族と連絡のとれる方の精神科の入院同意は大変。

- 3月5日 山梨大学の学生さん、寿町を見学。
田中医師のお話を聞く。
- 3月6日 救急隊を日に数回呼んでいたIさん、入院となる。ちょっと寂しくなりました。
- 3月14日 DOTSに来ていたUさん、何故か千葉で保護され、千葉の救急病院経由警察車両

で受診。

- 3月17日 カルテ6000枚突破。栄光の番号を獲得した方はいつもお世話になっているヘルパーさんでした。
- 3月26日 内科合併、ADL低下している方の精神科入院先探しに苦慮する。
- 3月27日 全身しらみのAさん。お風呂に入り、散髪し、着替えて入院するが、卵が孵ったのか、病室で大発生したという情報が入る。
- 3月28日 DOTSに来ていたKさん、飲酒止まらず、鈴木医師と神奈川病院へ入院。
診療室のインターフォンの修理をしました。

4月 春はやっぱり落ち着きがありません。

- 4月1日 熊倉医師、水曜午後のみの診療に。
診療所19年目の春です。
- 4月11日 デイケアIさん、土曜午後に炎症反応が上昇していることが発覚し、急遽入院。
- 4月18日 退院後、先ほどまで待合室で待っていたEさん、警察署で保護され措置入院。
- 4月30日 久しぶりにソフト救急で入院。

5月 GW前が支給日だったためか、スリッパする人、金欠病の人多発

- 5月2日 Nさん、ようやく入院に応じ、鈴木医師と共に神奈川病院へ入院。
- 5月8日 第1回20周年記念準備会開催
- 5月9日 DOTSのNさん、糖尿病の悪化あり、スイーツ療法開始(スイーツ療法=ゼロカロリーのゼリー、羊羹などをDOTSに来たら渡す)。
- 5月15日 開設以来の患者のIさん、帳場さんに連れられ腹痛で久しぶりの受診。入院後がんが見つかり、手術になる。
- 5月16日~17日 デイケア、稲子へ田植え。
- 5月20日~21日 デイケアへ東邦大の看護学生さん見える。メンバーさんウハウハ。
- 5月26日 古くからの患者Kさん、町にいるといじめられてしまうので、入院経由町外へ。
人口が一人減りました。

(矢島 雅子)

医療法人 ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

◇診療科目 精神科 神経科 心療内科
内科 整形外科 鍼灸
診療所

	9時30分	12時	14時	17時	診療科目
月	休診				
火	鈴木伸・天田・渡部(月2回)		鈴木伸・天田・渡部(月2回)		精神科・神経科・心療内科・内科
水	土屋・吉廣		土屋・熊倉・吉廣		精神科・神経科・心療内科・内科
木	鈴木伸・大脇・土屋・三橋(第3)		鈴木伸・大脇・土屋・三橋(第3)		精神科・神経科・心療内科・内科・整形外科
金	鈴木伸・土屋・吉廣		土屋・吉廣		精神科・神経科・心療内科・内科
土	鈴木伸・田中(第2・4週)・鈴木美奈子(月2回・エコー検査)・土屋(月1回)・野本(月1回)				精神科・神経科・心療内科・内科

※12-14時はお昼休み

鍼灸院 (鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください)

	9時30分	13時	14時	17時
火	新井・佐藤		新井	
水	新井・富永		新井・富永	
木	新井		新井	
金	新井		新井	

※13-14時はお昼休み

○保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護 障害者総合支援法 (その他、医療福祉相談も受け付けています)

○心理判定

○寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

◇所在地

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17
リバーハイツ石川町 1・2F

◇でんわとファックス

(045) 651-2305 (診療所)
(045) 305-4322 (鍼灸院)

◇e-mail info@kyoudouclinic.com

◇ホームページ

http://kyoudouclinic.com

2015年6月30日現在